

地域情報化アドバイザー制度活用報告書（2日目）

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	大阪市役所		代表者名	鶴見 一裕	
担当者部署	ICT戦略室		連絡先電話番号	06-6208-7666	
担当者役職	係員	担当者氏名	遠藤 達也	連絡先E-mail	
住所	530-8201 大阪府大阪市北区中之島1-3-20				

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	廣川 聡美
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	本市が抱える課題であるDXの推進に必要な区長・局長級職員への理解について、アドバイザーのDXへの取り組みの考え方や、アドバイザー自身の過去の経験から、受講対象者への訴求力は非常に高く、課題解決に大きく寄与する内容であったため。
アドバイザーへの要望事項	特になし

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）	活動時間（分）
3-1. 活動	2021年12月2日	14時00分	16時00分	10	110
	派遣形態	講演（オンライン）			

4. 報告書に関してのAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="checkbox"/> 掲載可
------	---

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	区長・局長級職員及び任意の部長級職員	120 人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点 （具体的にご記入下さい）	区長及び局長級職員におけるICTリテラシー向上とDXに対する意識醸成が課題である。	
支援により目指す成果 （具体的にご記入下さい）	区長及び局長級職員がDXの必要性を理解し、高い業務改革意識を持てるようになる。	
アドバイザーに支援を受けた内容 （具体的にご記入下さい）	区長・局長級職員がDXの必要性を認識し、DXを単なるICT化、デジタル化ととらえるのではなく、根底にある「業務改革」等への意識を高めることを目的とした研修（オンライン）を実施。 研修タイトル：ICTの活用からDXの推進へ	
支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）	区長及び局長級職員における、今後の組織運営・事業運営に対するDX推進への取り組むべき課題（今後の職員数減少、行政サービスの向上等）を認識できた。 区長及び局長級職員が研修を通じて、今後の職員数減少、行政サービスの向上等の課題を意識し、DXの必要性を理解し、業務に対するデジタル技術の活用や高い業務改革意識を持つことができた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。⑦その他 別紙2_令和3年度区長及び局長級職員向けICT研修アンケート結果について	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 （具体的にご記入ください）	区長及び局長級職員へのDXの必要性については意識づけることができたが、職員の意識改革や業務改革（職員のマインド（気運）醸成 役所文化や風土 等）慢性的に繁忙な業務実態があり、新たな企画に取り組みにくい状況	


アンケートの内容と分析結果	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。）アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。</p> <p>多くの受講者がDXを進めていく必要性を理解し、具体的に自所属内の課題に照らし合わせて考えることができている受講生もいたことから、DXに向けたマインドの醸成は一定の効果があったと考えられる。一方で、市民を直接相手とする区役所等はハードルの高さやシレンマがあるという意見も見られたため、それらのギャップをどう埋めていくかが今後の課題である。 ※アンケート内容の詳細については「別紙2_令和3年度区長及び局長級職員向けICT研修アンケート結果について」を参照してください。</p>	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい	⑤その他
事業の最終的な目指す姿	区長及び局長級職員におけるICTリテラシー向上とDXに対する意識醸成の研修ができたので、本事業については完了した。	

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

1 管理職は、DXに如何に臨むべきか？

(1) DXに関する知識やスキルを身につける

- ・ 他自治体、企業の先進事例について、ネットやマスコミのニュース等を継続的にチェックし、情報収集する。
- ・ どのような課題を、どういう技術を導入し、どのように解決したのかを学ぶ。
- ・ 技術の詳細には拘らない。(若手や専門家に任せる)
- ・ 調べたことは、職場で共有、話題とする。
- ・ デジタルでのコミュニケーション方法に慣れる。
→ ウェブ会議、メール、チャットなど



1 経営層の役割

(1) 明確なビジョンを描き、分かりやすく示す
担当分野のDXのビジョンを、可能な限り具体的にイメージし、共有する。

(2) 俯瞰的視点で状況把握し、全体最適の答を出す
関係分野、さらに市全体を俯瞰し、最適解を導く。

(3) 組織と組織、人と人を繋ぐ
DXには、多様な主体の連携協働が不可欠。繋ぐのは経営層の仕事。

(4) 変化を見通し、先手を打つ
市民ニーズの変化、課題を取り巻く状況の変化、技術の刷新等の予兆を見極め、対応策を事前に準備する。

(5) 現場の視点を忘れない
市民の実体験を聴く。現場の職員の感覚を大事にする。

